授業充実に向けて　〈 国 語 科 〉

県北教育事務所

新学習指導要領を踏まえて

言語の教育としての立場が一層重視されたことを受け、実生活で**生きてはたらく国語の能力**を身に付けさせるとともに、伝統的な言語文化をはじめ**国語を尊重する態度**を育てることが重要となります。そのことを踏まえ、特に次の点を重視することが大切です。

- **学習の系統性の重視**
- **言語活動の充実**
- **身に付けるべき国語の能力の明確化**
- **授業の展開、評価方法等の工夫**

「学び合いの充実」と「学びの習慣作りの充実」のために

学び合いの充実のためには、学び合いの**目的**が**明確**であり、**方法**や**内容**が**具体的**である必要があります。そして、何が分かり、深めることができたのか、学び合いの**効果を想定**することも重要となります。特に国語科においては、着目させる**「言語」の焦点化**を図ることが大切です。

また、学びの習慣作りとしては、**「言葉」のおもしろさや有用性**に気付ける働きかけに取り組むとともに、ノート指導や音読指導・読書活動の推進等、**日常生活との関連において重点的・継続的に**取り組めるようにすることが大切です。

◇　指導計画の作成･活用と単元（授業）構想の明確化

□　学年・単元・単位時間において、**目標や指導内容が曖昧に**なってはいないか。
□　同じパターンの授業展開になってはいないか。

学習の系統性や子どもの発達特性に応じて、単元の**目標及び指導内容の具体化**とともに**重点化**を図る必要がある。

小学校 6 年間、中学校 3 年間でどのような国語（言語）の能力を身に付け、活用できる力を育むか、学習指導要領で**系統的・具体的**に示されている学年（小学校では 2 学年スパン）の指導事項に基づいた年間指導計画を作成する。そして、その計画を基に、**指導事項の具体化・重点化**を図り、単元・授業を構想することが重要である。

□　どんな言語活動を行うか、にとらわれ、**言語活動自体が目的に**なってはいないか。

言語活動を通して指導事項を指導することが基本であり、子供に身につけさせたい**国語の能力を育成するのに最適な言語活動**を位置づけることが重要である。

「活動」があっても「学び」がなければ国語の能力は身につかない。子供の実態を踏まえ、目標や指導事項の育成に**ふさわしい言語活動**に取り組ませることが重要である。また、「活用」する力の育成のためにも**単元を貫く言語活動**の位置づけが求められる。そこで、学習指導要領に示された言語活動例を基本に、その**種類や特徴を捉えた上**で、子供にとっても目的や相手が明確となる最適な言語活動を取り入れ、それをどのように工夫し、充実させるかが重要となる。

◇　確かな国語（言語）の能力育成

□　音読・サイドライン・劇化・ワークシート等、手だてはあるが、その**特性を踏まえた意図ある指導**になっているか。

何のためにこの学習活動を行うのか、**指導の意図**を明確にする必要がある。指導の意図があり、**学習活動の特性**を考慮して計画的に取り組ませることが指導の効果を高める。

たとえば、音読もその方法や対象によって指導の効果が様々である。単に国語の授業だから読む方法の一つとして行うのではなく、**指導の意図に応じて効果的に**取り組ませたい。サイドラインについても、その箇所の確認にとどまらずに根拠や考えを取り上げ学び合いに生かしたい。このように、「読む」「書く」「話す・聞く」に関する国語の能力の育成にふさわしい手だてを**児童の実態や教材の特性に応じ**、精選して取り上げるようにして指導の効果を高めたい。

□　**めあて**が子供にとって「やりたい」「知りたい」「わかりやすい」ものになっているか。まとめとの整合性はあるか。

子供の主体的な学びのためにも、子供が何を考え、学ぶかがとらえられる**具体的な「めあて」を設定**したい。

たとえば「～を読み取ろう」「～をしよう」では、「どうすることが読み取ることなのか」「することが目的なのか」学習の成果が曖昧となりやすい。「なぜ～したのだろう」「どのように～」と**具体的な課題を示すことで、学習内容が明確**になる。つまり、教材研究を深め、具体的な課題、発問を行っていくことが重要となる。

□　**「学び合い」**がグループ等での話し合いの機会設定にとどまっていないか。

□　構造的な**板書**による学習効果、**ノート指導**による主体的な学習態度の育成等に取り組んでいるか。

国語の学習では、**キーワード**がどのような意味をもち、どのような考えが出され、話し合いによって吟味されるかが重要である。そのことがが**構造的に整理**されることで 学びが深まる。そのための学び合いや板書計画、普段からのノート指導等により学びが確実となる。

読み取ったり、書き表したり、発表し合ったり、多くの言語活動おいて、重要な言語（言葉）を押さえた学習が行われることが、確かな国語（言語）の能力の育成には必要である。それを押さえて**効果的な学び合い**が行われることが重要であり、その**過程**がわかりやすく板書されることもその学びを支えるといえる。また、**主体的な学習**への取り組みを推進し、その中で**個の学習を保障**し、**個の高まりを生かし**た学習を行う力を育成するため発達段階に応じたノート指導も重視していきたい。